

## 第4章 空間タイプ別デザイン誘導指針

---



## ① まちなかを構成する6つの空間タイプ

都市空間のデザインを検討する際には、公共施設としての街路のみならず、沿道の建物や駐車場等も含めて一体的に捉える必要がありますが、その空間の特性によって、目指すべき空間像や求められる取組は異なります。

そこで、沼津のまちなかを構成する空間を次の6つのタイプに分類し、それぞれの空間形成のねらいに応じたActivity・Street・Managementの具体的なアイデアを「デザイン誘導指針」として示します。

凡例	
	広場
	シンボルロード
	歩行者専用道路
	生活道路A
	生活道路B
	駅まち環状
	行政による空間再編整備 予定箇所





### ① 広場



まとまったオープンスペースを有する沼津の玄関口。周辺の商業施設と連携し、市民や来訪者の滞在・交流の拠点となることが期待されます。また、空間再編整備が行われることで、ヒトのための空間が拡張します。

南口駅前広場

### ② シンボルロード



広幅員の道路を有し、まちなかの骨格を成す空間。人々の活動を空間に表出することで、沼津のシンボル空間となることが期待されます。また、空間再編整備が行われることで、ヒトのための空間が拡張します。

(都) 三枚橋錦町線

(都) 沼津駅沼津港線

### ③ 歩行者専用道路



沼津の商業の中心的な役割を担ってきた歩行者空間。店舗内に限らず、公共空間においても来訪者や商店者等の交流が盛んに行われ、引き続きまちなかのにぎわいの中心であることが期待されます。

仲見世商店街

### ④ 生活道路A



区画街路のうち主に広い幅員の道路を有し、地域住民等の日常生活に利用される空間。民間敷地の設えの工夫などにより、地域コミュニティ醸成の場となることが期待されます。

生活道路A

### ⑤ 生活道路B



区画街路のうち狭い幅員の道路を有し、地域住民等の日常生活に利用される空間。通りの閉塞感を防ぎ、歩行者が自動車と共存できる空間となることが期待されます。

生活道路B

### ⑥ 駅まち環状



広幅員の幹線道路によって様々な手段の交通を受け止め、まちなかの外周を形作る空間。沿道の風景から街の入口であることを感じさせる空間となることが期待されます。

(都) 沼津静浦線

(都) 本通線



## 2 広場

## 空間形成のねらい

多様なアクティビティが可能なたままとったオープンスペースや、人が居心地よく過ごせる滞留施設・緑環境を創出し、周辺の商業施設との連携によって一体的に活用することで、まちなかの目的地のひとつとして、市民や来訪者の滞在・交流が生まれる空間とします。

## A-1

1階部分は、飲食や物販などにぎわいが感じられる用途とする。

## A-2

1階部分は、開口部を大きくとり、内部の様子がわかるような、ガラス等の透過性のある素材を用いる。

## A-2

店舗の地先空間を客席の一部として利用し、にぎわいを店舗内外で連続させる。

## M-2

まちの回遊を意識した、建物内部の動線やエントランス配置とする。

## M-1

公共空間を活用し、出店や客席利用など、民間活動を展開する。

## S-2

高木植栽や芝生等によって、緑豊かな歩行・滞在環境をつくる。

## M-1

歩行者空間にパーレットなどの滞留・休憩施設を設け、人が滞在しやすい環境をつくる。

## S-3

建物外観は、突出した華美なもの避け、周辺環境と調和した、低彩度の落ち着いたデザインとする。

BEFORE

アイディアリスト

		空間形成方針	アイデア	取組主体
Activity	A-1	グランドレベルにおける 民地からの滲み出し	1階部分は、飲食や物販など、にぎわいが感じられる用途とする。	民
			1階部分は、開口部を大きくとり、内部の様子が見えるような、ガラス等の透過性のある素材を用いる。	民
	A-2	地先空間を活用した、 小さい滞留空間づくり	地先空間にイス・テーブル等の什器を設置し、ちょっとした休憩が可能な滞留空間を設ける。	民
			店舗の地先空間を客席の一部として利用し、にぎわいを店舗内外で連続させる。	民
	A-3	まちの資産となる 使い勝手の良い オープンスペース	多様な活動に対応できるフレキシブルでまとまりのあるオープンスペースを確保する。	公
			空間を使いこなすための什器やそれを保管するための場所を用意する。	公 / 民
			空間の利活用に必要なインフラ（電気・水道・排水等）を整備し、使い勝手の良い空間とする。	公 / 民

		空間形成方針	アイデア	取組主体
Management	M-1	民間事業者等による 積極的な 公共空間の利活用	公共空間を活用し、出店や客席利用など、民間活動を展開する。	公 / 民
			歩行者空間にパークレットなどの滞留・休憩施設を設け、人が滞在しやすい環境をつくる。	公 / 民
			適切に利活用範囲の整理・清掃を行い、まちなみ景観を阻害しないよう配慮する。	公 / 民
	M-2	にぎわいや安らぎを 生み出す、 民間敷地の有効活用	敷地を共同化し、土地の合理的な利用を促進する。	民
			まちの回遊を意識した、建物内部の動線やエントランス配置とする。	民
	M-3	民間敷地と公共空間の 一体的更新	建物の壁面後退等による空間を街路・広場と一体となったパブリック空間として活用し、にぎわいを創出する。	民
		建物は、広場に対して顔を向け、広場とのつながりを意識した設えとする。	民	

公：公共  
民：民間事業者

		空間形成方針	アイデア	取組主体
Street	S-1	歩きやすく、 分かりやすい、 安心安全な歩行者空間	歩道の段差や切り下げをなくし、車イスやベビーカー等でも移動しやすいように配慮する。	公
			民間敷地内部からの灯りや、街路灯などで公共空間を照らし、夜間や有事でも安心して歩ける空間を確保する。	公 / 民
	S-2	環境にやさしく、 自然を感じる快適な空間	高木植栽や芝生等によって、緑豊かな歩行・滞在環境をつくる。	公
			屋外で使用する什器等には、緑と調和する木材など、温かみを感じる材質のものを用いる。	公 / 民
			透水性機能や保水・遮熱機能、騒音・排気等の吸収機能など、環境に配慮した舗装とする。	公
	S-3	沼津らしさを感じる 品格のある まちなみデザイン	建物外観は、突出した華美なものとは避け、周辺環境と調和した、低彩度の落ち着いたデザインとする。	民
			ショーウィンドウや庇、照明、看板、屋外什器等はエリアでの統一感や連続性に配慮し、トータルで演出する。	民
			案内・誘導や店舗のサイン等は、周辺の景観に配慮した統一感のあるデザインとする。	公 / 民



## 3 シンボルロード（沿道店舗連携型）

## 空間形成のねらい

メインストリートにふさわしい統一されたデザインのもと、建物内部から地先や歩道へと滲み出しが行われ、沿道と公共空間が一体となって、店舗利用者等が居心地良く滞留できる空間とします。

## A-3

建物のデザインの工夫やアイストップとなる樹木・小広場の設置等により、歩行者のたまりとなる特徴的な街角をつくる。

## S-3

店頭のディスプレイやショーウィンドウの演出などにより、閉店時のまちの景観にも配慮する。

## S-1

歩道の段差や切り下げをなくし、車イスやベビーカー等でも移動しやすいように配慮する。

## S-3

建物外観は、突出した華美なものは避け、周辺環境と調和した、低彩度の落ち着いたデザインとする。

## A-1

地先を活用して商品やサービス等を提供し、沿道のにぎわいを演出する。

## A-1

1階部分は、飲食や物販などにぎわいが感じられる用途とする。

## A-2

地先空間にイス・テーブル等の什器を設置し、ちょっとした休憩が可能な滞留空間を設ける。

## M-1

公共空間を活用し、出店や客席利用など、民間活動を展開する。

## M-1

適切に利活用範囲の整理・清掃を行い、まちなみ景観を阻害しないよう配慮する。



BEFORE

地先が十分に活用できておらず、楽しむ、たたずむ雰囲気は不足している。

アイディアリスト

		空間形成方針	アイデア	取組主体
Activity	A-1	グランドレベルにおける 民地からの滲み出し	1階部分は、飲食や物販など、にぎわいが感じられる用途とする。	民
			1階部分は、開口部を大きくとり、内部の様子がわかるような、ガラス等の透過性のある素材を用いる。	民
			地先を活用して商品やサービス等を提供し、沿道のにぎわいを演出する。	民
	A-2	地先空間を活用した、 小さい滞留空間づくり	地先空間にイス・テーブル等の什器を設置し、ちょっとした休憩が可能な滞留空間を設ける。	民
			店舗の地先空間を客席の一部として利用し、にぎわいを店舗内外で連続させる。	民
			軒や庇、日よけなどにより、店舗前に人が留まりやすい空間をつくる。	民
	A-3	まちの資産となる 使い勝手の良い オープンスペース	建物のデザインの工夫やアイストップとなる樹木・小広場の設置等により、歩行者のたまりとなる特徴的な街角をつくる。	公 / 民
			空間を使いこなすための什器やそれを保管するための場所を用意する。	公 / 民
			空間の利活用に必要なインフラ（電気・水道・排水等）を整備し、使い勝手の良い空間とする。	公 / 民

		空間形成方針	アイデア	取組主体
Street	S-1	歩きやすく、 分かりやすい、 安心安全な歩行者空間	歩道の段差や切り下げをなくし、車イスやベビーカー等でも移動しやすいように配慮する。	公
			民間敷地内部からの灯りや、街路灯などで公共空間を照らし、夜間や有事でも安心して歩ける空間を確保する。	公 / 民
			通りの始まりとなる箇所の舗装やサイン等は、まちの入口であることが視覚的にわかるようなデザインとする。	公 / 民
			駐車場の出入口の設置を避け、店舗の連続性や歩行者の安全性を確保する。	民 / 住
	S-2	環境にやさしく、 自然を感じる快適な空間	歩行空間と自転車走行空間を分離し、歩行者の安全性を高める。	公
			高木植栽や芝生等によって、緑豊かな歩行・滞在環境をつくる。	公
			屋外で使用する什器等には、緑と調和する木材など、温かみを感じる材質のものを用いる。	公 / 民
			透水性機能や保水・遮熱機能、騒音・排気等の吸収機能など、環境に配慮した舗装とする。	公
			民地における壁面緑化や敷地境界部の植栽・プランターなどにより、まちの緑を補完する。	民 / 住

		空間形成方針	アイデア	取組主体
Street	S-3	沼津らしさを感じる 品格のある まちなみデザイン	建物外観は、突出した華美なものは避け、周辺環境と調和した、低彩度の落ち着いたデザインとする。	民
			ショーウィンドウや庇、照明、看板、屋外什器等はエリアでの統一感や連続性に配慮し、トータルで演出する。	民
			店頭のディスプレイやショーウィンドウの演出などにより、閉店時のまちの景観にも配慮する。	民
			案内・誘導や店舗のサイン等は、周辺の景観に配慮した統一感のあるデザインとする。	公 / 民
			立て看板は周辺環境と調和したデザインとする。	民

		空間形成方針	アイデア	取組主体
Management	M-1	民間事業者等による 積極的な 公共空間の利活用	公共空間を活用し、出店や客席利用など、民間活動を展開する。	公 / 民
			歩行者空間にパークレットなどの滞留・休憩施設を設け、人が滞在しやすい環境をつくる。	公 / 民
			適切に利活用範囲の整理・清掃を行い、まちなみ景観を阻害しないよう配慮する。	公 / 民
	M-2	にぎわいや安らぎを 生み出す、 民間敷地の有効活用	敷地を共同化し、土地の合理的な利用を促進する。	民
			空き家・空き地などの低未利用地を交流・チャレンジの場として暫定的に活用し、にぎわいを育成する。	民
			通りに面した民地の一部を民間活動の場として提供し、交流のきっかけをつくる。	民 / 住
M-3	民間敷地と公共空間の 一体的更新	建物の壁面後退等による空間を街路・広場と一体となったパブリック空間として活用し、にぎわいを創出する。	民	

公：公共  
民：民間事業者  
住：住民



### 3 シンボルロード(くつろぎ空間創出型)

#### 空間形成のねらい

メインストリートにふさわしい緑豊かで、落ち着いたきのあるデザインのもと、公共空間の活用によってまちなかで過ごすためのきっかけを作りながら、周辺住民やオフィスワーカー等の滞留・交流が生まれる空間とします。

#### S-3

建物外観は、突出した華美なもの避け、周辺環境と調和した、低彩度の落ち着いたデザインとする。

#### S-2

民地における壁面緑化や敷地境界部の植栽・プランターなどにより、まちの緑を補完する。

#### A-3

空間を使いこなすための什器やそれを保管するための場所を用意する。

#### M-1

公共空間を活用し、出店や客席利用など、民間活動を展開する。

#### S-2

高木植栽や芝生等によって、緑豊かな歩行・滞在環境をつくる。

#### S-2

屋外で使用する什器等には、緑と調和する木材など、温かみを感じる材質のものを用いる。

#### M-1

歩行者空間にパークレットなどの滞留・休憩施設を設け、人が滞在しやすい環境をつくる。

#### A-3

建物のデザインの工夫やアイストップとなる樹木・小広場の設置等により、歩行者のたまりとなる特徴的な街角をつくる。

休憩し、くつろげるスペースが少なく、足を止めるきっかけが不足している。

BEFORE



アイディアリスト

		空間形成方針	アイデア	取組主体
Activity	A-1	グランドレベルにおける 民地からの滲み出し	1階部分は、開口部を大きくとり、内部の様子がわかるような、ガラス等の透過性のある素材を用いる。	民
	A-2	地先空間を活用した、 小さい滞留空間づくり	地先空間にイス・テーブル等の什器を設置し、ちょっとした休憩が可能な滞留空間を設ける。	民
	A-3	まちの資産となる 使い勝手の良い オープンスペース	建物のデザインの工夫やアイストップとなる樹木・小広場の設置等により、歩行者のたまりとなる特徴的な街角をつくる。 空間を使いこなすための什器やそれを保管するための場所を用意する。 空間の利活用に必要なインフラ（電気・水道・排水等）を整備し、使い勝手の良い空間とする。	公/民 公/民 公/民

		空間形成方針	アイデア	取組主体
Street	S-1	歩きやすく、 分かりやすい、 安心安全な歩行者空間	歩道の段差や切り下げをなくし、車イスやベビーカー等でも移動しやすいように配慮する。	公
			民間敷地内部からの灯りや、街路灯などで公共空間を照らし、夜間や有事でも安心して歩ける空間を確保する。	公/民
			通りの始まりとなる箇所の舗装やサイン等は、まちの入口であることが視覚的にわかるようなデザインとする。	公/民
			駐車場の出入口の設置を避け、店舗の連続性や歩行者の安全性を確保する。	民/住
			歩行空間と自転車走行空間を分離し、歩行者の安全性を高める。	公
	S-2	環境にやさしく、 自然を感じる快適な空間	高木植栽や芝生等によって、緑豊かな歩行・滞在環境をつくる。	公
			屋外で使用する什器等には、緑と調和する木材など、温かみを感じる材質のものを用いる。	公/民
			透水性機能や保水・遮熱機能、騒音・排気等の吸収機能など、環境に配慮した舗装とする。	公
	S-3	沼津らしさを感じる 品格のある まちなみデザイン	民地における壁面緑化や敷地境界部の植栽・プランターなどにより、まちの緑を補完する。	民/住
建物外観は、突出した華美なもの避け、周辺環境と調和した、低彩度の落ち着いたデザインとする。			民	
案内・誘導や店舗のサイン等は、周辺の景観に配慮した統一感のあるデザインとする。 立て看板は周辺環境と調和したデザインとする。			公/民 民	

		空間形成方針	アイデア	取組主体
Management	M-1	民間事業者等による 積極的な 公共空間の利活用	公共空間を活用し、出店や客席利用など、民間活動を展開する。 歩行者空間にパークレットなどの滞留・休憩施設を設け、人が滞在しやすい環境をつくる。 適切に利活用範囲の整理・清掃を行い、まちなみ景観を阻害しないよう配慮する。	公/民 公/民 公/民
	M-2	にぎわいや安らぎを 生み出す、 民間敷地の有効活用	敷地を共同化し、土地の合理的な利用を促進する。 空き家・空き地などの低未利用地を交流・チャレンジの場として暫定的に活用し、にぎわいを育成する。	民 民
	M-3	民間敷地と公共空間の 一体的更新	建物の壁面後退等による空間を街路・広場と一体となったパブリック空間として活用し、にぎわいを創出する。	民

公：公共  
民：民間事業者  
住：住民